

多面的・多角的な視点で、自分事として道徳的価値の理解を深める生徒の育成 ～生徒同士のインタビューを中心とした学習活動を通して～

特別研修員 道徳 宮崎 瞳(中学校教諭)

生徒の実態

- ・自分の生活と教材を結び付けて考えることに課題が見られる。
- ・発言が表面的な言葉や雰囲気で終わってしまい、友達との対話がすぐには途絶えてしまうため、考えの深まりに課題が見られる。

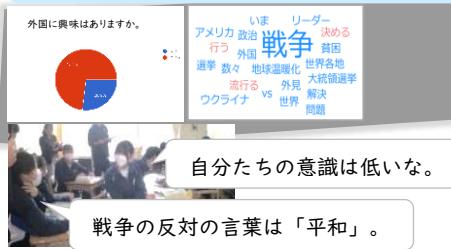
教師の願い

- ・自己と向き合い、自分との関わりで道徳的価値を捉えてほしい。
- ・生徒が教材について自分事として考え、多様な視点から語り合うことで、道徳的価値を深められるようにしてほしい。

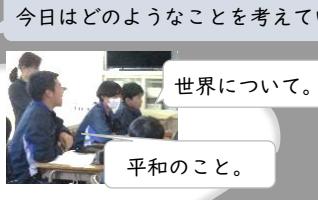
主題名 壇根をこえて 内容項目Cー（18）国際理解・国際貢献 教材名「六千人の命のビザ」（出典：「新しい道徳2年 東京書籍」）

導入 手立て1 生徒自身が見通しをもち、自分事として考える導入の工夫

- ①アンケート結果やワードクラウドを活用し、個の思いや考えを全体で共有する



- ②つぶやきを基に「めあて」を設定する

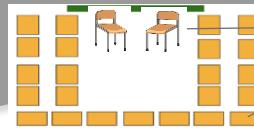
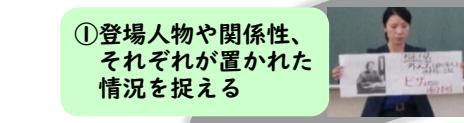


- ③本時のめあてに対する今の自分の考えを書く

めあてに対する今の自分の考え方
「世界のニュースばかりに目を向ける」

展開 手立て2 多面的・多角的な視点で考えを深めるためのインタビュー活動の設定

- ①登場人物や関係性、それぞれが置かれた情況を捉える



主人公である杉原千畝役の生徒はインタビューされる側

その他の生徒はインタビューする側

- ④問い合わせや補助発問による対話を通じて考えを深める

今の千畝さんの考えを聞いて、どう思いましたか？



- ②範読を聞き、インタビューに向けて「問い合わせ」を考える



- ③ねらいを視点にし、登場人物役の友達にインタビューを行う

「決断」という視点で、主人公に、インタビューしたいことはありますか？



覚悟の上で、自分の命よりも多くの命を優先したいと思った。

終末に向けて 手立て3 インタビュー活動を踏まえ、自由に語り合える場の設定

導入時の考え方と比較し学びを振り返る

「トトトが責任をもって「この国の人々を助けたい」「この国に貢献したい」という置けな「をもつこと」が大切だと思いました。ちょうど同じことでも他の国への意識を向けて発信していくことが大切だと思いました。
私も改めて自分たちだけではなく、他の国に手を貸さなければ、他の立場だなと思いました。ユダヤ人墓地活動も積極的に取り組もうと思いました。

今の自分はどのような考え方ですか？



世界全体で一人一人の命を尊重し、相手を大切にしようとする考えをもつことが大切だ。



ユダヤのために命を張るのはすごい。自分が逆の立場だったらどうなのかと考えることが大切だ。

目指す生徒像 多面的・多角的な視点で、自分事として道徳的価値の理解を深める生徒

成果

- アンケート結果やワードクラウドを活用し、自分たちの実態を把握したことにより、自分たちで設定しためあてを意識した話合いや振り返りにつながり、自分事として考えている姿が見られた。
- インタビュー活動を通して、自分たちで考えた「問い合わせ」を基に、「××の立場だったら…」と多面的・多角的な視点で教材と向き合い、考えている姿が見られた。

課題

- ペアやグループの対話から道徳的価値に迫るために、教師が対話の内容を聞き取り、生徒の考え方を広げたり、つなげたりしていくことが重要である。
- インタビュー活動を小グループで行うなど、生徒の実態に合わせてより効果的な学習形態の工夫を考えていく必要がある。